



優  
秀  
賞

## 私が産まれた日

東海村立東海南中学校 一年

古ふる市いち双ふた葉ば

平成二十三年三月十一日、私の誕生日です。そう、まさに東日本大震災のその日に産まれました。母は、その日ちようど陣痛が来ていて病院の陣痛室にいたそうです。お腹に機械をつけて陣痛の間かくを計っていた午後二時四十六分、大きな本震が来しました。母は必死にお腹を守りながら、ゆれがおさまるのをただ待っていました。それはすごく長い時間を感じられたそうです。

その後、停電と断水になり、入院していた人も含めロビーに集められました。産後の人は家に帰るように言われ、出産間近だった母は、お医者さんと停電した病院で、懐中電灯の灯りで生むことを覚悟したそうです。その後、お医者さんや看護師さんと非常電源のある総合病院に行くことになり、母はお腹の痛みを必死にこらえ、何とか総合病院に

行き、無事私を産んでくれました。総合病院も大混乱で母は出産する場所もなく、看護師さんたちが作ってくれた人の輪の中で私を産んだそうです。

私は誕生日を迎える度、自分が産まれた日がどんな日だったかをテレビや新聞で見ずにはられません。そしてその度に胸がしめ付けられる気持ちになります。私が産まれたその日に、多くの人が命を落とした事実があり、心が苦しくなります。

私が産まれてからも、日本ではたくさん地震や自然災害があります。熊本県で大きな地震があったり、静岡県では大きな土砂崩れがありました。その度、たくさんの方が亡くなったり、けがをしたり、家を失ったりしています。私が産まれた日のことや、その後に起きた自然災害等を踏

まえ、私は二つのことを主張したいと思います。

ひとつは、災害は避けることはできないけれど、備えることはできるといことです。東日本大震災が起きたときは、多くの人が水や食べ物を備蓄しておらず、役場などに人が押し寄せて大変だったと聞きました。私の家ではいつも水を一箱分は備蓄しておくようにしています。賞味期限が近くなってきたら飲んで、代わりに新しい水を買っておきます。常温で保存できる食べ物もいくつか保存して同じように時々食べて買い直しています。これは「ローリングストック」と言い、食べ物を無駄にせず、災害時にも備えておける方法です。

また時々、母と散歩しながら避難所の場所や井戸の場所の確認をしています。誰もがこうした取り組みを日頃から準備しておけば、災害時にも混乱せず、行動することができると思います。

次に、災害が起きたときに、自分なら何ができるか考えるということ。母は、社会福祉協議会で働いています。災害が起きると災害ボランティアセンターを立ち上げると教えてくれました。以前、台風で大子町の川が氾濫した時も、母は災害ボランティアセンターの手伝いに行っていました。災害ボランティアセンターでは、被害にあった家の

方の要望に応じて、片づけをしたり、掃除をしたりするボランティアを派遣するそうです。そんな話を聞いて、私も中学生になったので、災害があった時は災害ボランティアとして活動したいと思うようになりました。

もし、災害ボランティアとして直接行くことができなくても、被災地の求めに応じて、雑巾や衣類を送ったり、募金したりすることもできるそうです。このように、一人ひとりが被災された方に思いを寄せて、関心を持って自分ができることを考えることが、一日も早い復興につながると思います。

私が産まれた日に多くの人が命を落としました。けれど、その方々の分までしっかりと前を向き、今ある命を大切に歩いて歩いていきます。そして、これからは災害について、自分なりに調べ、備えやできることについて発信していきたいと思います。

